

# 松文産業(株)旧女子寮「精華寮」の建築 (1) 宿舎棟の現況

吉田 純一\*, 多米 淑人\*

## The Buildings of the Dormitory called `Seika Ryo` in the Matsubun Industry Co., Ltd. (1) The Present State of the Buildings for Lodgings

Yoshida JUNICHI and Tame YOSHIHITO

This article is a survey about the construction of old girl dormitory which the Matsubun industry Co., Ltd. owns. This report reports the present situation of the building of three lodgings ridges. In both buildings, an old state is approximately just left in the appearance. However, the inside is largely repaired, and the first floor is repaired by the warehouse, and the state of the old dormitory room is only left in the second floor of Building No. 3.

Keywords: Matsubun Industry Co.,Ltd., dormitory, Seika Ryo, present state

### 1. はじめに

勝山市街地の中心部の旭町1丁目に立地している松文産業株式会社は、ケイター（株）と並ぶ勝山市における大規模な機業場の一つである。明治21年（1888）に創業した石上機業場が経営難に陥ったため、近親者であった横浜の生糸問屋松文商店の経営者松村文四郎が引き継ぎ、大正2年（1912）に松文機業場として再出発したのがそのはじまりである。大正8年の福井県統計書（『勝山市史 第三巻・近代現代』平成4年）によると、松文機業場の製品価格は75万円、職工162人で、勝山では勝山機業兄弟合資会社（現ケイター）の187万円余、職工数274人に次ぐ規模を有していた。

これら大規模な機業場は多くの女子織工を抱えていたためにそれぞれ寄宿舍を設けていた。松文産業（株）も同様で、同社の旧女子寮「精華寮」は、勝山市に現存する唯一の例として貴重である。本研究はこの「精華寮」の建築調査報告で、本稿はその第一報として3棟の木造宿舎棟の現況とそれらの復元について報告する。

### 2. 「精華寮」とその建築

松文産業（株）の敷地は地方主要道勝山丸岡線の東側にあり、道沿いの南北方向が約220m、東西方向は東方の山裾近くまでおよそ400mに及んでいる。敷地は南北に流れる大連寺川および、

---

\* 建築学科

その東を走る通りによって大きく3区画に分けられる。最奥の東方の一画には昭和8年に増設された7棟の工業群がある。これらはいずれも木造平屋建て、切妻造スレート瓦葺きで、南北に棟を通し、中央の入口・通路部を挟んで、南半部に5棟、北半に2棟が並んでいる。通りと大連寺川に挟まれた中央の区画には事務所や倉庫がある。旧女子寮「精華寮」は水路の西側すなわち道路寄りの区画に南を正面として立ち、その南にはグラウンドが広がっている。

「精華寮」を構成する建築としては、まず、東西に長い棟をもつ木造2階建ての宿舍が3棟ある。ここでは、南から北へ順に一号棟、二号棟、三号棟と呼ぶ。これらも東方の7棟の工場群と同じく、昭和8年に山本組の設計・施工によってつくられたものである（『福井県の近代化遺産』福井県教育委員会 平成11年）。また、昭和35年ごろに三号棟の北側に増設された鉄筋コンクリート造の宿舍も現存している。そして一号棟の東端に宿舍棟への出入り口である入母屋造・2階建ての建物（以下では、玄関棟と呼ぶ）があり、さらにその東に南北に棟を通す建物（以下では、講堂棟と呼ぶ）がつながり、その東にもう1棟の建物（以下では、休養棟と呼ぶ）が並んでいる。

旧女子寮の「精華寮」は、以上のような建物からなる大規模な施設であるが、今回の調査では木造建物に限定したため最北端にある鉄筋コンクリート造の宿舍は除外し、南北にならぶ3棟の宿舍棟と玄関棟、講堂棟、休養棟を調査対象とした。

ちなみに、昭和35年に宮崎県から集団就職者のひとりとして松文産業に入社した齋藤ケサミ氏によれば、当時、一号棟は「梅寮」、二号棟は「桜寮」と呼ばれ、三号棟が「精華寮」と呼ばれていたという。また、入社直後に彼女が入ったRC造の宿舍棟はできたばかりで、「菊寮」と呼ばれていたという。

### 3. 宿舍棟の現況

宿舍棟は、一号棟・二号棟・三号棟の3棟からなる。3棟の宿舍は東西方向に棟を通し、南北に平行に並んでたつ。3棟は東端と西端に設けられた1間半の通路で連結され、全体の形は日の字型の構成をとっている。

#### 3-1. 一号棟

3棟の宿舍のうち最も南にある棟で、東端につく玄関棟とともに「精華寮」の正面を形成している。

①**建築形式の概要**・・・木造2階建て、規模は梁間4間・桁行27間（後述のように実質は32間）、屋根は寄棟造・棧瓦葺、小屋組は束を併用するキングポストトラス、外壁は南京下見板張で、薄ピンク色のペンキ塗となる。そして1, 2階にはガラス窓が連続して設けられている。



写真 01 一号棟外観



写真 02 一号棟小屋組

②1 階内部・・・当初は、1, 2 階ともに寮室がとられていた。現在は 2 階に寮室が残るだけで、1 階は寮室境の中ほどに立っていた旧柱が 3 間間隔に残るだけである。これ以外の柱や間仕切り、板床、天井など、部屋の構成部材はすべて取り払われ、全面コンクリート床の広々とした物資保管用倉庫として改修されている。玄関寄りの一面に板床張りの部屋が 3 室みられるが、そのうちの玄関に張り出す部屋は受付や事務室として増設されたものである。その西側に続く 2 室はもとの寮室部分に相当し、床や押し入れも残っている。柱・板床の一部にも旧材とみられるものがあるが、壁や天井などは大幅に改修されていて、寮室の面影はほとんど伺えない。北側通路寄りの部屋には「染判定室」との名札があり、現在の状態は寮室から「染判定室」への変更の際に改修されたものと考えられる。



写真 03 一号棟 1 階内部



写真 04 染判定室

③階段・・・一号棟の階段は東西 2 か所に設けられている。東側の階段は「第一階段」とあり、東側の連絡通路から 1 間西に入った位置すなわち上記の 3 室の西背後に位置し、現在も使用されている。一方、西側の階段は西側通路脇にあり、「第二階段」と呼ばれていたが、その南面はシャッター付きの出入りに改修されたために現在では取り払われている。



写真 05 第一階段



写真 06 第二階段



④2階内部・・・2階は北側に1間幅の廊下が通り、それに沿って東西の両階段の間に12の居室が1列に並んでいる。広さは東階段脇の居室が8畳で、残りの11室はすべて6畳である。そしてそれぞれの部屋の廊下寄りの1間分に踏み込みや物入れが設けられている。いずれの部屋も化粧ベニヤで全面改修されており、古い柱はすべて覆い隠されている。そのため旧状を伺うことは不可能である。ただし、廊下の板床や棹縁天井、北面に取られた窓や内法の小窓の構成などは当時のままである。



写真 07 一号棟 2階廊下



写真 08 一号棟 2階居室（第七号室）

⑤2階東端の広間（ブツマ）・・・東階段の東隣に現在4間×3.5間の畳敷きの部屋がある。この部屋は、階段側に押入れが3つ並ぶことや鴨居と敷居あるいは天井の状態から現在入り口がつく北側の1間×3.5間とその南側の西寄り桁行2間、東寄り1間半に区分できる。

これらの東に桁行5間、梁間4間、押入れや物置をもつ36畳敷の広間が続いている。東面中央の2間部分に仏壇が置かれていたことから社内では「ブツマ」と呼ばれている部屋である。この一画は、現在の玄関棟の2階部分のようにみえる。しかし、後述するように現在の玄関棟の屋根は、東に隣接する講堂棟まで延びていた一号棟の屋根の上に増設されもので、この広間は元来、一号棟の2階部分に相当する。

床は一面畳敷きで、天井は棹縁天井である。上記のように仏壇が置かれていた東面の中央2間は襖4枚がたち、その南北両脇の1間は押入れで、それぞれ引違いの襖2枚がたつ。



写真 09 広間西隣の部屋



写真 10 広間（ブツマ）



写真 11 前室

⑥外回り・・・2階の窓や外壁は、ペンキの剥がれ落ちが目立つものの、窓や外壁面の構成、形式はほぼ当時の状態を留めている。すなわち外観をみると、南面は3間を単位として、その2間



分を窓とし、残りの1間を壁とする構成が連続している。そして窓の上部内法には小窓がつき、1階、2階ともに窓の上方に金属板葺の小庇をつけている。なお、窓脇の付柱には元々ベランダ状の張り出しが付くが、現在はすべて撤去され、ボルトだけが残っている。北面は基本的にはすべての柱間を1間幅の引き違いガラス窓とし、内法にも同じガラス戸を入れた小窓をとっている。北面の窓脇にも付柱もみられるが、当初からベランダ状の張り出しはついていなかった。

一号棟の1, 2階外壁において、大きな改造がみられるのは南面西端部である。西端の1間、および次の2間は側柱を取り去り、シャッターを入れた出入り口に改造されている。



写真 12 一号棟南面外観



写真 13 シャッター部



写真 14 一号棟北面外観

⑦便所・洗面所・・・一号棟の桁行方向のほぼ中央に北の中庭側に幅2間×奥行2間程度の張り出し部がつく。この張り出し部の1階には便所が、2階には洗面所と洗濯場が設けられている。ただし、後述するように、当初は手洗い・洗面所は二号棟と三号棟から東側の講堂につながる渡り通路部にあり、この張り出し部は1, 2階ともに女子用の便所であった。



写真 15 一号棟1階便所



写真 16 一号棟2階洗面所

### 3-2. 二号棟

南北に並ぶ3棟の中央にある宿舎棟である。

①建築形式の概要・・・建築形式や規模などは一号棟とほとんど同じである。木造2階建て、規模は梁間4間・桁行27間、屋根は寄棟造・桟瓦葺である。また小屋組はキングポストトラス、外壁は南京下見板張・薄ピンクのペンキ塗で、南側窓には手すりが付くベランダ状の張り出しがある。



写真 17 二号棟外観



写真 18 二号棟小屋組

②1 階内部・・・二号棟も当初は 1, 2 階ともに寮室が並んでいた。しかし、現在、1 階は床や天井、間仕切りが取り払われ、わずかに寮室境にあった旧柱が数本残っているだけである。東側に板床の部屋が残っている。床はやはり全面コンクリート床で、物資保管用倉庫に改造されている。



写真 19 二号棟 1 階内部



写真 20 二号棟東側の部屋

③階段・・・階段も一号棟と同様に東西 2 ケ所にあり、付く位置も一号棟と同じである。東側が「第三階段」、西側が「第四階段」と呼ばれていた。ただし、現在は第三階段のみが残り、第四階段は取り払われている。

④2 階内部・・・2 階は北側の 1 間幅の廊下が通り、それに沿って東西の階段の間に 12 の部屋が配されている。このうち東階段西隣の部屋が 8 畳、残りがすべて 6 畳の広さであること、そして各部屋の廊下側 1 間分に踏み込みや物入れがみられること、化粧ベニヤで改修されていることなども同じである。ただし、廊下は板床が張り替えられているが、棹縁天井や北面の開口部の形式はほぼ当時のままである。この点も一号棟と同様である。

一号棟との違いは、一号棟は元来桁行 32 間で、東階段のさらに東に広間（ブツマ）が続いているが、二号棟は桁行 24 間で 3 棟を連結する東西の通路間に納まっていること、および二号棟の 2 階において東階段の東隣の連絡通路との間に 2 間半×3 間、15 畳大の部屋がみられることである。





写真 21 二号棟 2 階廊下



写真 22 二号棟 2 階居室



写真 23 二号棟 2 階東居室

⑤便所・洗面所・・・二号棟においても桁行方向のほぼ中央に約 2 間四方の張り出しがつき、ここに便所が設けられている。



写真 24 二号棟 1 階便所



写真 25 二号棟 2 階便所

⑥外回り・・・外回りに関しては桁行の南面、北面ともにそれぞれ一号棟と同じ形式である。ただし、一号棟南面の西端部にみられたような出入口への改造もなく、ほぼ創建当時の外観形式を留めている。



写真 26 二号棟南面外観



写真 27 二号棟北面外観

### 3-3. 三号棟

南北に並ぶ 3 棟の北端にある宿舎棟である。

①建築形式の概要・・・三号棟の建築形式も基本的には一号棟・二号棟と同じである。木造 2 階建て、規模は梁間 4 間・桁行 27 間、屋根は寄棟造・棧瓦葺であり、小屋組はキングポストトラス、



外壁は南京下見板張・薄ピンクのペンキ塗で、2階南側の窓に手すり付きの張り出しがみられる。



写真 28 三号棟外観



写真 29 三号棟小屋組

②1階内部・・・三号棟も当初は1, 2階ともに寮室がとられていた。しかし、1階の廊下や寮室はすべて取り払われて、ここでも寮室境の旧柱の一部がみられるだけで、宿舍の面影は全く伺えない。床は全面コンクリートになり、物資保管用倉庫に改修されている。



写真 30 三号棟1階内部



写真 31 三号棟1階内部

③階段・・・階段はやはり東西2か所につく。東側の階段は「第五階段」、西側は「第六階段」と呼ばれ、現在では両階段ともに使用不可能である。両階段の位置をみると、西側の階段位置は西側通路脇にあり、一号棟・二号棟と同じであるが、東側の階段位置は、一・二号棟の位置より2間半分東にずれ、東側の連絡通路脇に位置している。



写真 32 第五階段



写真 33 第六階段

④2階内部・・・三号棟の2階にも廊下と寮室が残っているが、一・二号棟と異なり、廊下だけでなく、寮室もほぼ当初の状態をそのまま残している。すなわち、北側に幅1間の廊下が通り、

それに沿って床や押入れを備えた広さ 15 畳の部屋 6 室と西側階段脇の 12 畳大の 1 室が並んでいる。これら各部屋は畳や建具は取り払われているが、棹縁天井もそのまま、一・二号棟のような改造はみられず、ほぼ当初の状態を保持していると考えられる。また、廊下の板床や棹縁天井、北面の窓など開口部の構成も当時のままである。



写真 34 三号棟 2 階廊下



写真 35 三号棟 2 階寮室

⑤便所・洗面所・・・現在では取り払われているが、元来は桁行の中ほどから北側への張り出し部には便所が設けられていた。しかし、これは一・二号棟のような 2 階建てではなく、平屋建てであった。

⑥外回り・・・外回りに関しては、一・二号棟とほぼ同じである。わずかに、西側通路が三号棟までであるために、北面西端 1 間半分の外観に相違がみられる程度である。



写真 36 三号棟南面外観



写真 37 三号棟北面外観

⑦三号棟の特異性・・・建築形式の概要や基本的構成は三号棟も一・二号棟と同じであるが、東階段のつく位置や北側の張り出し部の状態などは違っている。また細部をみると、2 階廊下の天井高さや廊下や居室につく窓台の高さなども一号棟・二号棟とは違っている。さらに柱や廊下の天井板、床材などの表情を比べても三号棟の方がやや新しく見える。

こうした違いがみられるのは三号棟と一・二号棟の間に建設時期の相違があったことを伺わせる。3 棟をつないでいる東側と西側の通路において、二号棟と三号棟の間に厚さ約 30 センチのコンクリート製の防火壁が設置されている。一号棟と二号棟の間にはこうした防火壁はないことか



らも三号棟の建設時期は一・二号棟よりもやや遅れることを伺わせている。ただし、詳細は不明である。



写真 38 東側 1 階防火壁



写真 39 西側 2 階防火壁

### 3-4. 連絡通路

これら 3 棟の宿舍棟は西端と東端につく 1 間半幅の連絡通路で 1、2 階ともにつながっている。また、一号棟は玄関を介して、二号棟と三号棟は梁間 2 間、桁行 5 間の平屋建ての建物を介して東側の講堂棟と通じている。



写真 40 東側連絡通路 1 階



写真 41 西側連絡通路 2 階



写真 42 講堂棟への連絡通路

### 4. 結語

以上、「精華寮」の 3 棟の宿舍棟について、建物の現況をみてきた。いずれも 1 階は物資保管場として大幅に改修されている。2 階はかろうじて寮室の面影がうかがえるが、一号棟、二号棟ではもとの寮室部を 2 室に分室していて、旧寮室の状態がほぼそのまま残るのは三号棟だけである。ただし、3 棟の宿舍が並列し、東西両端の連絡通路でつながる構成や南京下見板張の外壁や窓の構成など、外観はほぼ旧状を留めていることが指摘できる。



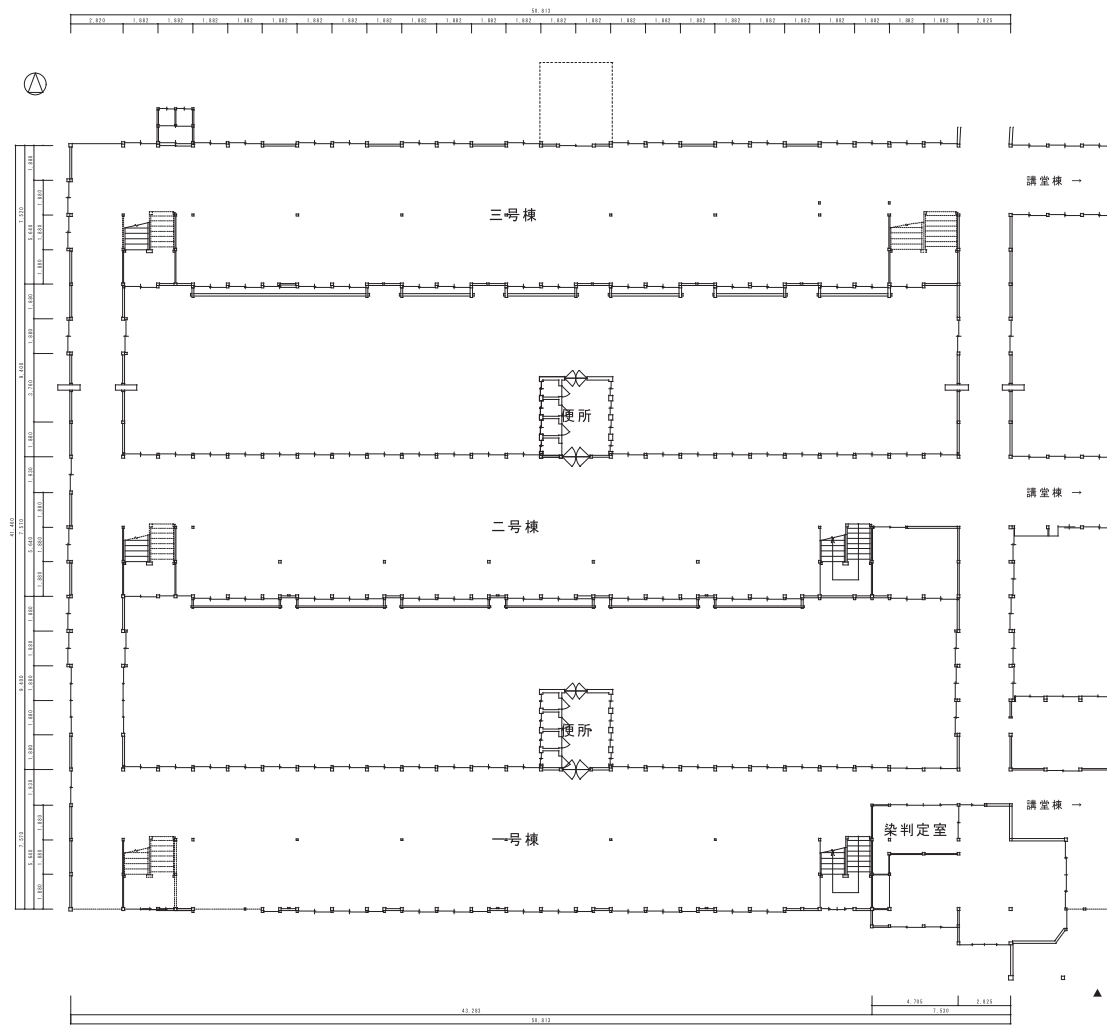


図 1 宿舎棟 1 階現状平面図 1/400

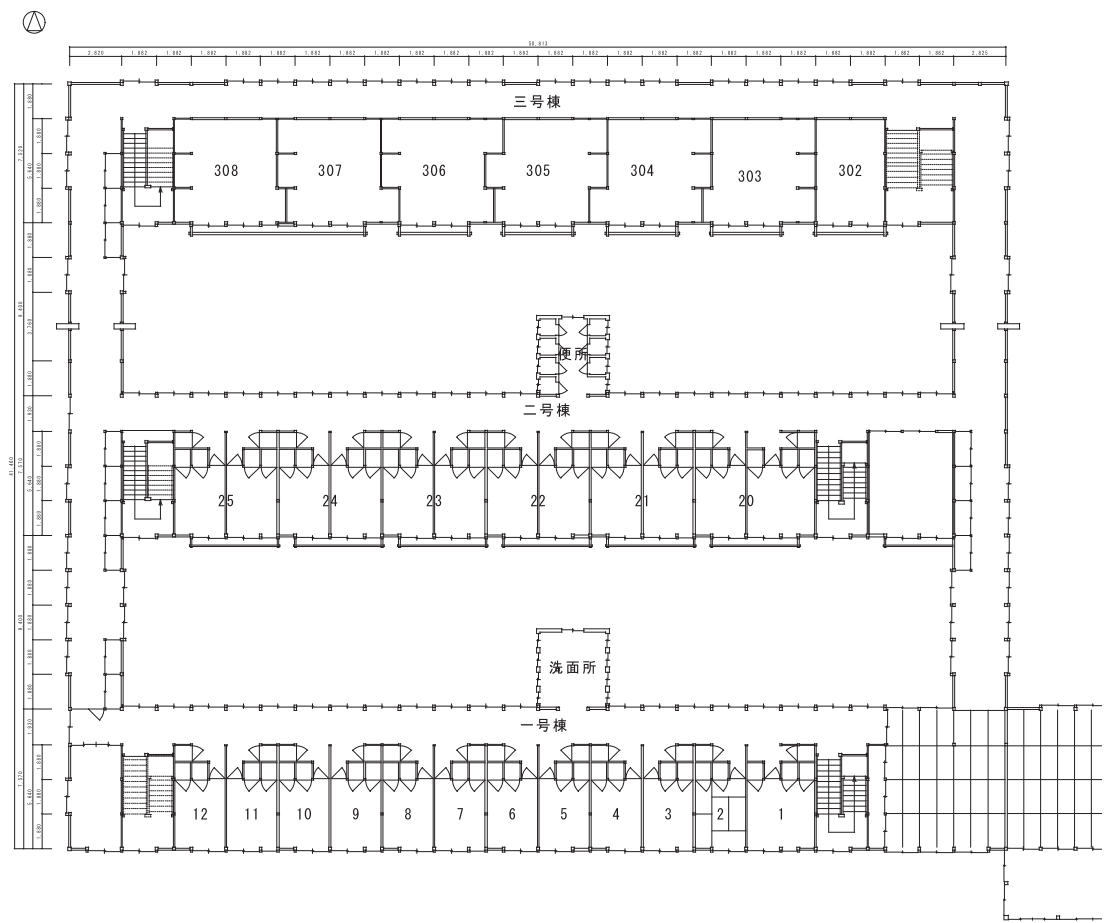


図 2 宿舍棟 2 階現状平面図 1/400

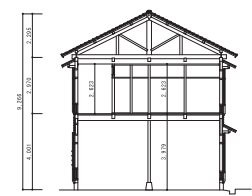


図 3  
宿舍棟一号棟断面図  
1/400

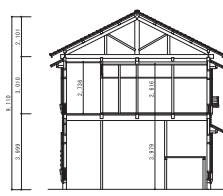


図 4  
宿舍棟二号棟断面図  
1/400

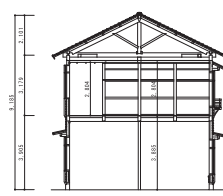


図 5  
宿舍棟三号棟断面図  
1/400



図 6 宿舍棟南面現状立面図 1/400

(平成 24 年 3 月 31 日受理)